



日本植物病理学会ニュース 第90号

(2020年5月)

【学会活動状況】

大会について

令和2年度日本植物病理学会大会は、3月19日～21日まで鹿児島県鹿児島市のかごしま県民交流センターにて開催の予定でしたが、国内における新型コロナウイルスの感染拡大にともない、感染機会の削減・拡散防止のため、併せて開催予定であったシンポジウム、研究会等とともに中止となりました。

【関連国際学会の開催状況】

第8回アジア植物病理学会 (Asian Conference on Plant Pathology 2020 in Japan, ACP2020) は中止に

第8回アジア植物病理学会は、本年9月15～18日まで茨城県つくば市のつくば国際会議場にて開催予定でしたが、国内および世界的な新型コロナウイルスの感染拡大の状況に鑑みて、併せて9月14日開催予定であった第5回日韓植物病理学会合同シンポジウム (5th Korea-Japan Joint Symposium on Plant Pathology) とともに中止となりました。

【会員の関連学会等における受賞のお知らせ】

佐野輝男氏 (弘前大学農学生命科学部教授) が、第110回日本学士院賞を受賞されました。日本学士院は、学術上功績顕著な科学者を優遇し、学術の発達に寄与するため必要な事業を行う機関として設置されています。本賞は、明治11年以来の歴史を誇り、我が国で最も権威ある学術賞のひとつです。

受賞の対象となった研究業績は、「ウイロイドに関する研究」です。国内の作物と果樹に発生する多くのウイロイド病の調査から、ホップ矮化ウイロイド (HSVd) が、ブドウ、カンキツ、モモおよびスモモに感染していることを明らかにしました。特に、ブドウに不顕性感染しているHSVdの変異体がホップ矮化病の病原体であることを解明し、最小の自律複製病原遺伝子であるウイロイドが宿主植

物に適応・進化する、生物の基本的な性質を有することを実証しました。こうしたウイロイドの基礎的知見を基に抵抗性作物開発に道を拓き、ウイロイド無病ホップ作出技術の指導と啓蒙活動を通じてその安定生産に貢献されました。以上の成果が、世界のウイロイド学を先導し、植物病理学等の学術上のみならず、植物保護・検疫等の実用的分野にも大きく寄与するものと評価されました。

【今後の学会活動の予定】

1. 2020年度部会開催予定

(1) 北海道部会

日時：令和2年10月15～16日

場所：北海道農業研究センター (札幌市)

(2) 東北部会

日時：令和2年10月8～9日

場所：岩手大学 (盛岡市)

(3) 関東部会

日時：令和2年9月3～4日

場所：東葛テクノプラザ (柏市)

(4) 関西部会

日時：令和2年8月31～9月1日

場所：島根大学 (松江市)

(5) 九州部会

日時：令和2年11月

場所：福岡県自治会館 (福岡市)

2020年4月15日時点の予定を掲載しています。各部会の開催予定については、学会ホームページなどで最新情報をご確認下さい。

【学会ニュース編集委員コーナー】

本会ニュースは、身近な関連情報を気軽に交換することを趣旨として発行されております。会員の各種出版物のご紹介、書評、会員の動静、学会運営に対するご意見、会員の関連学会における受賞、プロジェクト研究の紹介などの

情報をお寄せ下さい。下記宛先まで、よろしくお願い申し上げます。

投稿宛先：〒114-0015 東京都北区中里 2-28-10

日本植物防疫協会ビル内

学会ニュース編集委員会

FAX：03-5980-0282

または、下記学会ニュース編集委員へ：

藤田佳克，山次康幸，足立嘉彦，宮本拓也，竹内香純

編集後記

学会ニュース第90号をお送りします。例年であれば、大会に付随した研究会、談話会等で盛りだくさんの内容になるのですが、国内における新型コロナウイルスの感染拡大に伴う感染機会の削減・拡散防止のため、令和2年度日本植物病理学会大会は、併せて開催予定であったシンポジウム、研究会等とともに中止となりました。また、本年9

月15～18日開催予定の第8回アジア植物病理学会と、9月14日開催予定の第5回日韓植物病理学会合同シンポジウムも中止となり、大変寂しい内容となりました。早く、新型コロナウイルスの感染拡大が収束し、学会本来の活発な活動の復活を祈ってやみません。

喜ばしいお知らせです。佐野輝男氏（弘前大学農学生命科学部教授）が、第110回日本学士院賞を受賞されました。誠におめでとうございます。益々のご活躍とご発展を祈念申し上げます。

学会ニュース編集委員会のメンバーが変わりました。大島研郎，池田健太郎，久保田健嗣が退任し，山次康幸，宮本拓也，竹内香純が新たに加わりました。新メンバーで学会ニュースの編集に新たな気持ちで取り組んでまいりますので、引き続きのご愛読をよろしくお願い致します。

（藤田佳克）
